

柴田新社長就任挨拶

当社は設備投資、特に工場建設の投資の状況に大きく左右されるエンジニアリング事業と公共投資に影響されるパイプ事業、および遮音・遮蔽材料・予備品などの販売を中心とした、素材部品販売事業の三つの事業を遂行しております。幸い昨年、一昨年と各社の設備投資が非常に好調で、そのため当社も好成績を残せました。公共投資の削減により苦勞していたパイプ事業の建て直しについても、何とか目処が付いて来たと思っております。

今年度に入り、多くの会社では昨年度より減益の予想をしており、公共投資についても、厳しい状況が予想されております。そのため残念ながら当社の本年度の予算も若干昨年度を下回る予想となっております。

エンジニアリング事業では、新規顧客や新規案件の掘起しにより、パイプ事業では、より一層の営業活動と民間への拡販に努力して、業績の改善を目指したいと思います。

そのためには当社の経営理念である、「お客様第一」「創造と挑戦」「人の尊重」を再認識することが必要です。社員一人ひとりが業務の改善や工夫をして、顧客満足を常に意識しながら業務を遂行し、自分たちの技術・業務遂行のレベルアップおよび業務の改善を、心掛け、会社の一層の充実・発展を目指せば、当社業績も維持発展し、社員が働く喜びも感じられる会社となることを信じて、一層の経営努力をしてみたいと思っております。顧客各位様には益々の当社ご愛顧とご指導方ご依頼申し上げます。



柴田社長

2007年度社長表彰

MESCOは年に一度、社内で功績のあった優秀なグループ及び個人を表彰しています。この度、2007年度の社長表彰式が挙行され、『The Best MESCO Engineer of The Year, 2007』には、予備品業務の受注拡大で椎葉主任（エンジニアリング第二事業部 営業統括部 海外営業部）、『The Best MESCO Engineer of The Year, 2007 奨励賞』には、中国株州亜鉛剥取機・アノード洗浄機等、多くの新規顧客開拓で吉田主事（エンジニアリング第二事業部 営業統括部 海外営業部）『The MESCO Group of The Year, 2007』には、銅製錬機械設備案件を担当した大門課長（エンジニアリング第一事業部 神岡支店）と木村主事（エンジニアリング事業部 技術本部 機械部）ら7名が受賞しました。

MESCOは、この制度により全社員の開発意欲を更に高め、技術の向上に役立てていきます。



受賞者及び関係者

Engineering
Quarterly

明日を担う技術の **MESCO**
三井金属エンジニアリング株式会社

本社 〒130-8531 東京都墨田区錦糸 3-2-1 7F 15階 Tel 03 (5610) 7831 Fax 03 (5610) 7861
国内営業部 〒130-8531 東京都墨田区錦糸 3-2-1 7F 14階 Tel 03 (5610) 7840 Fax 03 (5610) 7863
東京支店 〒273-0024 千葉県船橋市海神町南 1-1667-1 Tel 047 (432) 0131 (代表) Fax 047 (432) 0127
東北支店 〒039-1161 青森県八戸市大字河原木字浜名谷地 76 Tel 0178 (28) 2041 (代表) Fax 0178 (28) 5251
神岡支店 〒506-1114 岐阜県飛騨市神岡町鹿間 1-1 Tel 0578 (82) 3539 Fax 0578 (83) 2862
九州支店 〒836-0817 福岡県大牟田市浅牟田町 3-1 Tel 0944 (57) 3190 Fax 0944 (54) 5539

平成 20 年 7 月 1 日 発行 Vol.43
発行責任者 国内営業部長 橘 政人
(tachibana_m@mesco.co.jp)
発行担当者 国内営業部 正木 孝信
(masaki@mesco.co.jp)

MESCO

Engineering Quarterly

2008 年 7 月 Vol. 43

海外営業部

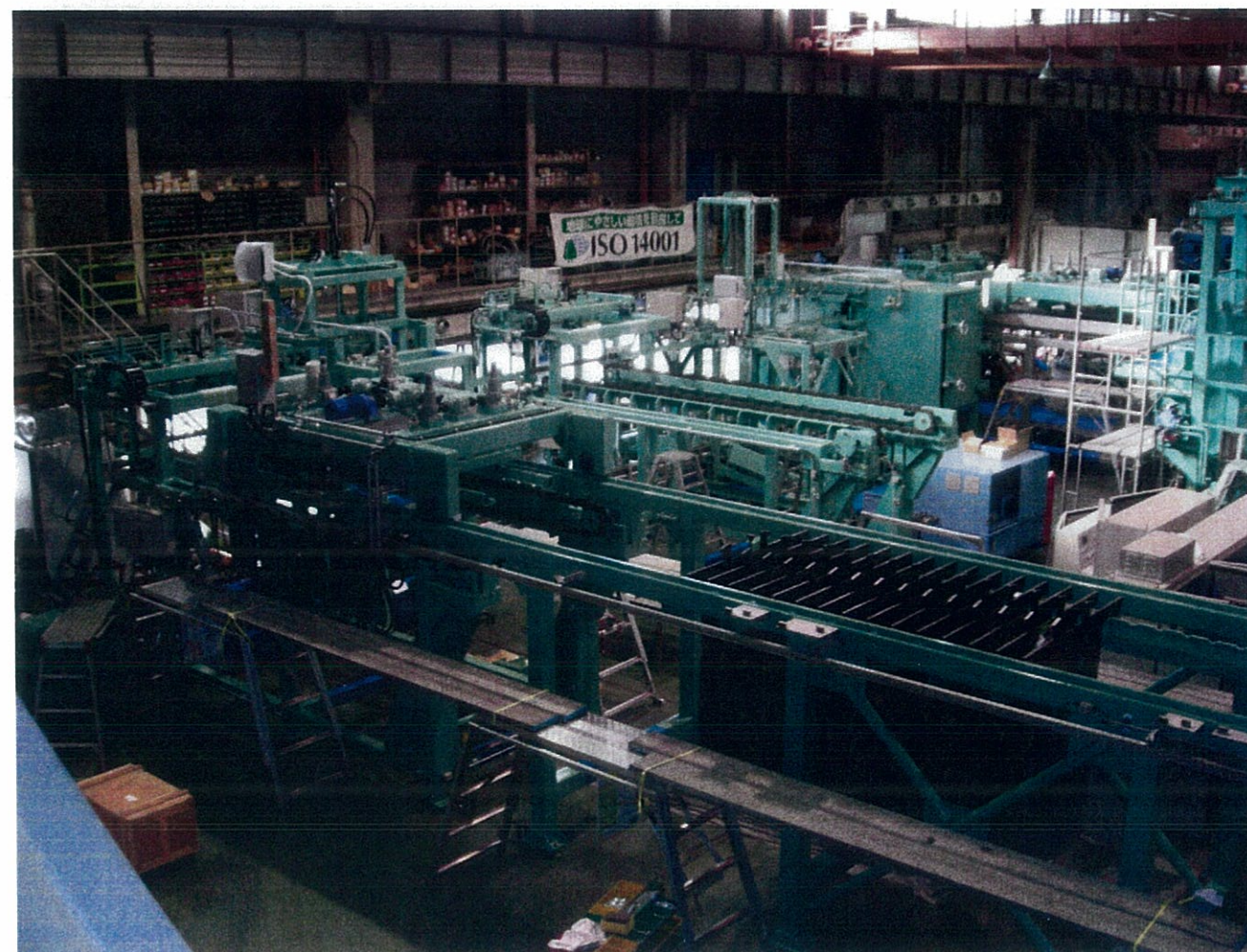
中国紫金製錬所殿向け亜鉛剥取機及びアノード洗浄矯正機を受注

MESCO 海外営業部は 4 月に中国紫金製錬所殿より亜鉛剥取機 2 台及びアノード洗浄矯正機 1 台を受注いたしました。本受注は株州製錬所殿に続いて中国で 3 度目の受注となります。

紫金製錬所殿は中国の内モンゴルにあり、本年 3 月より 10 万トン新工場の建設工事に着工しており MESCO 亜鉛剥取機及びアノード洗浄矯正機はその新工場で採用されました。

この採用をきっかけに、更に既存の 2 箇所の 5 万トン工場に 1 台ずつ亜鉛剥取機を導入していただける期待が持てることになりました。

また、MESCO 海外営業部では、カザフスタンの Kazzinc 殿向け、中国の Yunnan Copper 殿向け、その他にコンゴの DCP 殿向け・Tenke 殿向け・Kinsevere 殿向け、アメリカの Nord Resources 殿向けなど、多数のお客様から銅剥取機等の受注をいただいております。



チヨダウーテ（株）殿向け土壌浄化材開発試験設備 完成

MESCO国内営業部は、チヨダウーテ環境事業部殿より廃石膏中及び土壌中のふっ素を不溶化する浄化材を開発する試験設備を受注し、予定通り完成・引渡しました。

チヨダウーテ殿は石膏ボードメーカーですが、新たに、ふっ素浄化材を利用して市場メリットのある土壌浄化材の開発に取り組んでおられます。

この度、納入した試験設備は、今後、増え続けるであろう建築廃材等の不法投棄問題の解決にもつながり、高効率、低価格である浄化材の早期商品化等に使用されることが期待されています。

MESCOの、これまでのODA、JOGMEC殿等、研究開発に関わる設備工事実績も評価され、後工程の設備においても顧客ニーズに対応し幅広く挑戦していきます。



土壌浄化材開発試験設備

MESCOは多様なニーズに積極的に挑戦しております。

素材事業推進部

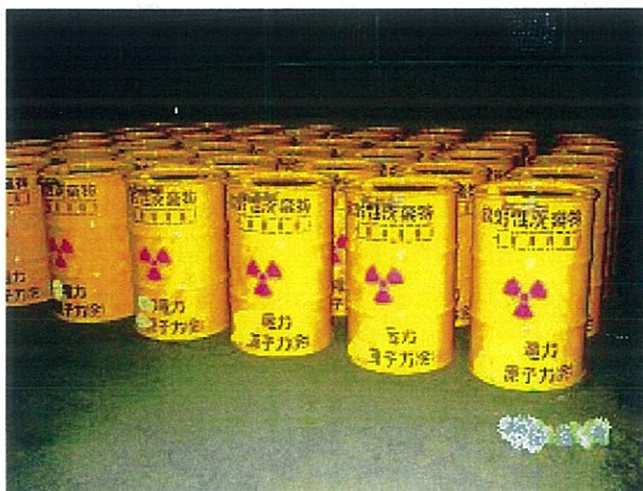
某原子力発電所向け放射性廃棄物保管用ドラム缶 受注

MESCO素材事業推進部は、各原子力発電所に低レベル放射性廃棄物保管用「防食強化ドラム缶」を長年にわたり納入しております。

このたび200Lドラム缶の内側に鉛遮蔽体を装着した、使用済液体用フィルターカートリッジの保管容器を受注しました。

従来、保管容器の遮蔽体にはセメントが使用されておりましたが、放射線遮蔽能力が高いという鉛の特性が評価され、当社製品が採用されました。

MESCO素材事業推進部は、主力製品である医療、遮音用オンシャットの他に原子力分野において防食強化ドラム缶・鉛ブロック・鉛毛等の放射線遮蔽材の販売にも取り組んでおります。



放射能廃棄物保管用ドラム缶



遮蔽体外観

神岡鉱業（株）殿向け鉛銀残渣処理設備及び脱硫塔増設工事 完成

MESCO神岡支店は神岡鉱業（株）殿より鉛銀残渣処理設備及び溶鉱炉排ガス処理用脱硫塔増設工事を受注し、予定通り平成20年4月21日に完成しました。鉛銀残渣処理設備は、これまで粉体で鉛溶鉱炉に投入していた原料を乾燥、混練、製団し供給することにより、鉛溶鉱炉の操業効率を飛躍的に向上させるため新たに導入されたプラントです。また、脱硫塔増設工事は、環境対策の強化として脱硫能力を増強し、大気への環境負荷をさらに低減するために導入されたものです。脱硫プロセスは石灰石膏法とし脱硫率は97%以上の能力を要求されましたが、本社の設計、神岡支店の施工にて完成することができました。なお、脱硫循環配管に耐蝕、耐摩耗性が要求され、高価なゴムライニング配管に代り、**MESCO**パイプを使用することでコストダウンを図り完成することができました。更に、工期は鉛りサイクル工場の定修期間という短期間に完成し、客先からの高い評価を頂きました。今後も**MESCO**の総力を挙げて神岡鉱業（株）殿の要求に応えてまいります。



新脱硫塔設備

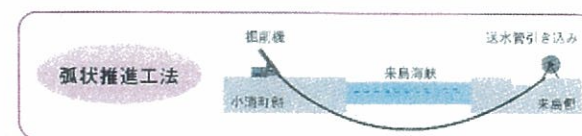
パイプ事業部

愛媛県今治市海底送水管工事 完成

MESCOパイプ事業部は、愛媛県今治市の離島（来島・小島）に飲料水を供給する海底送水管を受注し、予定通り完工しました。

離島には、毎朝、市営の給水船で飲料水が運ばれていましたが、この工事により島々に水道管が直結され天候に左右されず飲料水が安定供給されております。来島海峡は潮流が速く海上工事が難しいため、離島への送水工事としては国内初となる海底の地盤を弓状に掘削する「弧状推進工法」を採用しました。

MESCOパイプ事業部は、今後も広く顧客要求に応じて業容拡大していきます。



弧状推進工法



海底送水管敷設状況

